

エゾマツノシントメタマバエ

エゾマツの冬芽が少し膨らみ、つぶれた球形のようになる。内部に黄色やオレンジ色のウジムシ（幼虫）がいる。最大長約3.5mm.

【学名】 *Dasineura ezomatsue* 【分類】 ハエ目 (Diptera) , タマバエ科 (Cecidomyiidae)

【分布】 北海道, 本州.

【生態】

宿主：エゾマツ.

年1世代。成虫はエゾマツの冬芽が開く5月上中旬に出現する。雌成虫はふくらみ始めた新芽に産卵し、孵化した幼虫は新芽の中心で栄養を摂取し、寄生された新芽は葉の展開がとまり、ふくらんで虫えい（虫こぶ）になるといわれている。虫えいの中で幼虫で越冬し、翌春に蛹化する。蛹は虫えいから上半身を外に出し、成虫が羽化する。

【被害】

若い造林地で発生が目立つといわれているが、多発記録はないようである。

【文献】

1985. 農林水産省林業試験場北海道支場保護部. 北海道樹木病虫害獣図鑑. 223 pp. 北方林業会, 札幌. (生態, 被害, カラー写真).

北海道立林業試験場・緑化樹センター

エゾマツノシントメタマバエ tamabae/ezosin/
kaisetv.htm

「文章」 原秀穂, 北海道立林業試験場, 2002/1/6.